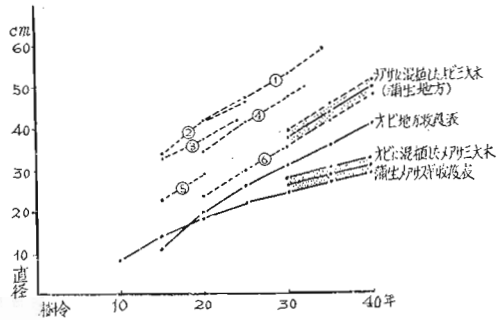


上表に示す通り、周囲のメアサギ3大木に対し、4倍以上の成長をなすもの4本、3倍以上のもの2本を得た以上の外にメアサギ3大木の3倍以上の成長をする半黒系統のスギ2本と、胸高直径で年平均2cm以上の驚くべき成長をなすオビスギ系統のスギ4本を発見したが、外形や材質が悪いため除外した。選抜した6本のスギの近年の成長量を生長錘によつて調査した結果を図示すると次表の通りである。

以上は本県の一部の調査成績であつて、林務部で調査取纏め中の県全体のものが明らかになれば、更に多数のものが、発見されるであろう。

(尙前記品種の見分け方等については、林業試験場熊本支場石崎技官の御指導を仰いだことを報告し、感謝の意を表する。)

第4表 精英樹の胸高直径成長と収穫表1等地との比較



備考 1) 肥肥地方収穫表 朝倉隆造氏調製  
2) 浦生地方収穫表 石田茂穂氏調製

### ユーカリの播種期について

林試宮崎分場 吉筋正二・川添 強

#### 1. ま え が き

春、梅雨期、秋の年3回の植栽時期に夫々適する苗木を得るには何時播き付ければよいか、播種期の範囲を知るために行つた。

#### 2. 方 法

山行苗の大きさは外圃の例から苗高20cmを採用し、種子の手に入つたものから始めた。

第1表 ユーカリの種類と播種月日

ユーカリの種類	播 種 月 日					
ロブスター	2.11	3.16	4.1	5.1	6.1	7.1
グロブルス				5.1	6.1	7.1
ロストラーク						7.1
サリゲナ						7.1

第2表 ユーカリ養苗期間の温度と雨量 (宮崎測候所昭和29年調べ)

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
平均気温	9.0	9.2	10.9	16.0	19.8	22.1	25.8	27.0	24.0	18.1
雨量	152.7	51.3	78.9	319.0	304.9	711.0	646.4	398.0	671.1	91.8

基肥に1m<sup>2</sup>当り硫安55gr. 過磷酸石灰45gr. 硫酸加里20瓦を施し、追肥と撒水は行わない。播種後1m<sup>2</sup>40本仕立とし床替しない。各区は標準苗10本を測定した。

#### 3. 結 果

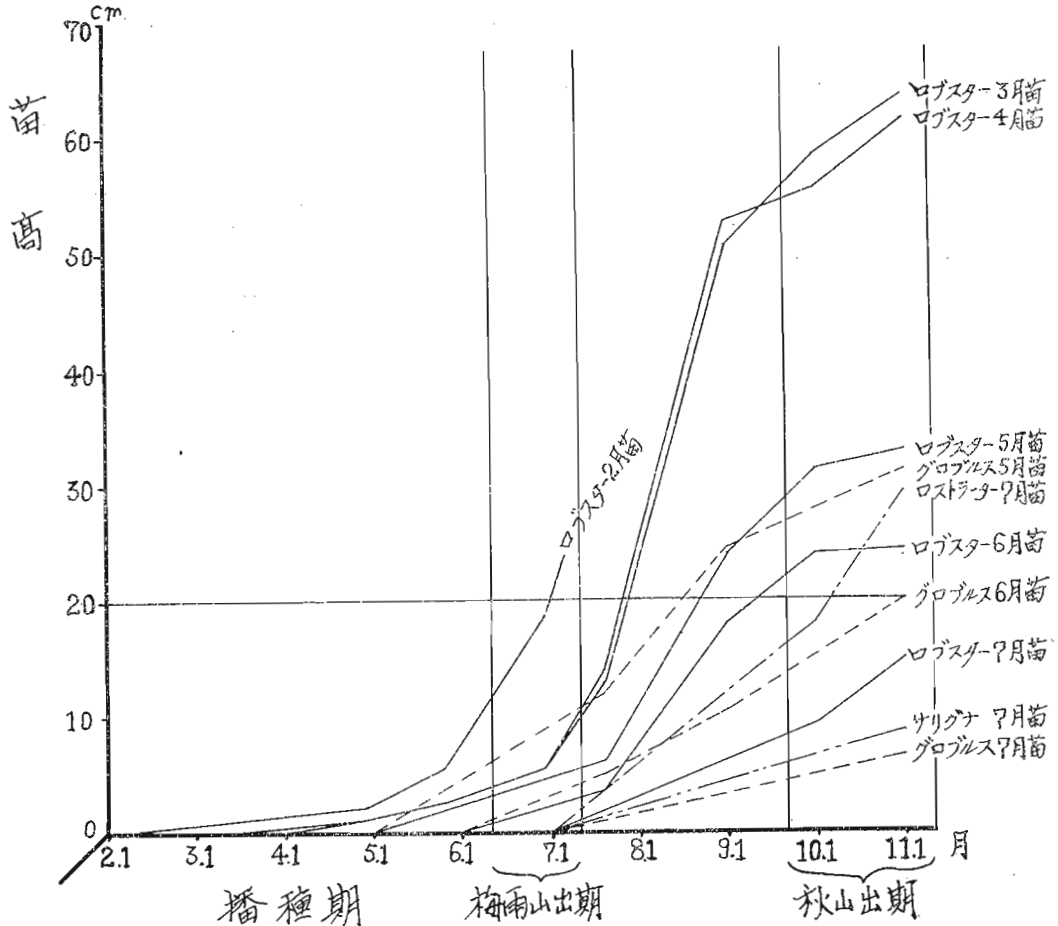
第1図でロブスターは2月まきが梅雨期の終りに24cmとなり山行苗高となつたが、3月まき、4月まきは標準苗高に達したのは7月末で秋の山出し時期の始めには56cmとなつた。5月まきと6月まきは夫々8月と9月に標準苗高に達し、3、4月まきと共に9月下旬の山出しが出来た。7月まきは秋期造林が出来ない。次にグロブルスはどの月の播種も生長が悪い結

果となつているが、これは颱風で樹勢が衰えたからである。

被害がなければ前半の生長経過から見てもロブスター程度の生長をして5、6月まきは秋の山行きが出来るものと思われる。ロストラークは生長早く7月播いても秋に標準苗高に達するが、サリゲナは間に合わない。

本29年は8月中旬の5号台風を始めとして9月に入つて13、12、15号と次々に宮崎地方を襲つた。そのため苗木の被害は著しい。苗木は直接の被害の外に、間接に、豪雨に依り表土が洗い流され根が露出し干害を受けた。被害程度は苗木の種類と大小に依る。第3表の生

第1図 ユーカリの月別播種苗の上長生長



第3表 ユーカリ苗の得苗及残存表

樹種	播種期	生立 本数	生 存			
			得苗数	全苗数	得苗率	生存歩合
ロブスタ	2	40	37	37	100.0	92.5
	3	40	23	38	60.5	95.0
	4	40	29	38	78.9	95.0
	5	120	85	95	89.5	79.1
	6	120	48	75	64.0	62.5
	7	120	16	42	38.1	35.0
	グロブス	5	120	20	30	66.7
6		120	6	12	50.0	10.0
7		120	0	4	0	3.3
ロストラータ	7	120	50	94	53.2	78.3
サリグナ	7	120	0	47	0	39.2

備考 全苗数の内比較苗高(=  $\frac{\text{苗高}}{\text{根元径}}$ ) 150を越ゆ

るもの及び根本径 2 mm未滿のものを不合格とした残りが得苗数である。

得苗率=得苗数全苗数

存歩合は被害の程度をよく示している。グロブルスはどの月の播種も生存歩合が少いが、特に稚苗程甚しく台風非常に弱い事が判る。ロストラータ 7月まきはロブスター及びサリグナの同月播種の約2倍の数字である事はロストラータが他の2種よりも台風に強い事を示している。又30cm未滿の小苗は被害大きく、同じ種類なら播種おそく従つて苗の小さい程結れた。台風来襲の時に大体じ位の大きさだつた。グロブルス 5月まきとロブスター 5月まき、及びグロブルス 6月まきとロストラータ 7月まきの生存歩合を夫々比較するとグロブルスはロブスターやロストラータより弱い事が判る。

全生存苗の内、比較苗高が過大の徒長苗と根本径 2mm未滿の過小苗を不合格とし残つたものが得苗数である。梅雨山出しの2月まきをのけて見るとロブス

ター得苗率は五月播を頂点として前後に次第に減少している。これは3、4月まきは密植となつて徒長苗多く、6、7月まきは生長不足で過小苗が多かつたためであり、グロブルス、ロストラータ及びカリグナの得苗率が少ないのも過小苗が多かつたからである。苗の形質については、苗高、根元径及び比較苗高の何れも3、4月まきとその後とは相当のひらきがあり、重量は5、6月と激減する。グロブルスは台風による衰えが甚しいから論外としてロストラータ7月まきはロプスター6月まきと形質が大體似ている。

#### 4. む す び

I. ユーカリ山行苗の大きさの基準を20cm以上と

仮定して、春、梅雨期及び秋の植栽季節迄に基準苗高に達する播種時期の範囲を調べた。

II. 梅雨期に造林するためにはロプスターは2月に播けば良い。

III. 秋造林するためにはロプスター及びグロブルスは3月～6月に播けばよい。

IV. 7月まいて秋造林出来るものはロストラータで他のロプスター、グロブルス及びサリグナは間に合わない。

V. 台風に対して、ロストラータは最も強く、グロブルスは非常に弱い。ロプスターとサリグナとは中庸である。

## ユ ー カ リ 樹 の 種 類 別 挿 木 試 験

佐賀県林業試験場 熊 瀬 川 忠 夫

### 緒 言

本樹は種子を多量に産するが、その種子の入手困難な今日、また優良個体の増殖の場合如何しても挿木等に依る無性繁殖法が必要になつて来る。本樹はまた非常に種類が多いが、如何なる種類が如何程の活着率を示すか、また発根促進剤を使用した場合如何なる成績を示すか等大いに必要と思われたので、以上の事につき挿木に関する予備試験を7種類について行つてみた。

### 材料及び方法

試験には *Eucalyptus robusta*, *Euc. grandis*, *Euc. rostrata*, *Euc. globulus*, *Euc. gigantea*, *Euc. viminalis*, *Euc. salicifolia*. の7種類を用いた。

(1) 試験区 種類如に無処理区、ヘテロオウキシン処理区と、計14区を設けた。

(2) 挿付期 無処理区は昭和29年7月7日に、処理区はヘテロオウキシン0.1%溶液に穂木の下部約8cmを24時間浸漬後翌8日に挿付けた。

(3) 穂木 各種共1年生苗木の側枝で長さ約15cm、太さ約0.3cmのものを用いた。

(4) 穂拵 無処理区は各種共穂木を2方切りに削り早目に挿付け、処理区は同様に穂拵をした後ヘテロオウキシン溶液に浸漬後そのまま挿付けた。またそれぞれ穂木には葉片を2～3枚づつ残した。

(5) 挿付地 佐賀県林業試験場苗畑で平坦な日当り良

好な場所である。土地は黒色の壤土であり、耕耘後1回の降雨を待つて挿付けた。挿付け間隔は8cm×10cm、深さは5～10cmである。

(6) 管理 挿付後は処理無処理区共約1ヶ月間高さ約25cmに日覆を施した。

### 結果及び考察

10月18日に掘取調査した結果は第1、2、3表の通りである。

(1) 活着状態 無処理区の各種別活着状態は第1表の通りである。即ち *Euc. grandis* が最も良い成績を示している。この内 *Euc. globulus*, *Euc. gigantea* は共に1本づつ生きてはいたものの発根も上生長も全然していない所をみると他の不活着種と同様挿木困難な種類と思われる。処理区の各種別活着状態は第2表の通りである。即ち *Ruc. robusta* が最も良い成績を示している。本処理区でも4種類は1本の活着もみながつた。処理区、無処理区につき各種別活着状態を比較してみると *Euc. grandis*, *Euc. rostrata* の2種はヘテロオウキシンに依る効果はほとんど見られないが、*Euc. robusta* では処理区は無処理区の2倍以上の活着率を示している。

(2) 発根状態 無処理区の発根状態は第1表の通りであり3種共あまり変りない。処理区については第2表の通りである。*Euc. rostrata* は挿付本数少なきため速断し難いが、*Euc. robusta*, *Euc. grandis* は無処理区に比してその効果は大である。

(3) 萌芽状態 無処理区別また各種別にもほとんど